

自律的学習者を育てるための安心に基づいた 社会情動的スキルの育成

山川 修*

Fostering Social-Emotional Skills Based on Secure Base to Nurture Autonomous Learners

Osamu YAMAKAWA*

The author's current research theme is "How to foster autonomous learners". Here, an autonomous learner is defined as "a learner who continues to learn because they find learning interesting due to intrinsic motivation". The author believes that intrinsic motivation is related to how one deals with one's emotions, and that this is related to a sense of "security" within oneself. Based on this belief, the author has created a model and is putting it into practice. This article explains the details of this model and the effects of practice.

キーワード：自律的学習者，内発的動機づけ，安心，社会情動的スキル

1. はじめに

現在の筆者の研究テーマは「自律的学習者をどう育成するか」である。ここで、自律的学習者とは「内発的動機づけにより、学ぶことを面白いと考えて学び続ける学習者」と定義しておく。筆者は、内発的動機づけに、自分の情動とのかかわり方、そしてそれは自分の中にある「安心」と関係があると考え、自律的学習者の安心モデルを提唱し、それに基づいた実践を行っている。本稿ではその詳細を解説する。

2. 内発的動機づけ

動機づけの理論は多種多様なものがあるが、ここでは内発的動機づけに焦点を絞る。内発的動機づけとは自律性を持ち、当該活動自体を目標とし、その活動に従事することを快と感じ、課題を達成すれば有能感が生じる動機づけと定義することができる⁽¹⁾。

内発的動機づけの理論として、現在、より包括的で主流となっているのは Edward L. Deci と Richard M.

Ryan により提唱された自己決定理論⁽²⁾である。自己決定理論中のミニ理論である有機的統合理論によると外発的動機づけから内発的動機づけには段階的に移行し、それは、無動機づけも含めると表1のような6段階に分類される。この理論では、外発的動機づけは4段階で、1番自律性が低い外的調整は報酬の獲得や罰の回避などの外的要求に基づく動機づけ、2番目の取り入れ的（調整）は他者との比較による自分の価値の維持に基づく動機づけ、3番目の同一化的（調整）は、活動を行う価値を認めて自分のものとして受け入れている状態の動機づけ、4番目の統合的調整は、活

表1 動機づけの段階

動機づけ分類		特徴的な学び方
内発的動機づけ		面白いから学ぶ
外発的動機づけ	統合的調整	自分が勉強したいから学ぶ
	同一化的	自分のために必要だから学ぶ
	取り入れ的	友達より良い成績を取りたいから学ぶ
	外的調整	叱られるから学ぶ
無動機づけ		学びたいと思わない

* Safeology 研究所 (Safeology Research Laboratory)